

令和6年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第2回 就労支援専門部会 要点記録

日時 令和6年11月15日(金)14:00~16:00
場所 文京区民センター 2-A 会議室
出席者 志村 健一 協議会副会長・瀬川 聖美 部会長・市川 礼雄 副部会長・藤枝 洋介 委員
阿部 優美 委員・山口 裕紀子委員・小野寺 肇 委員・池田 直矢 委員・小泉 洋平 委員
野村 育代 委員・阿部 光実 委員・平井 芙美 委員・長澤 みこ 委員・中瀬 茂由 委員
大野 聡士 委員・鶴田 秀昭 委員・望月 大輔 区委員
(ゲスト委員)松下 功一 委員
欠席者 天野 亨 委員・小谷野 恵美 区委員

<会議次第>

1 開会

2 議事

- (1) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて
「しょうがいのある方のいろいろな働き方」
【資料第1-1号~資料第1-3号】
- (2) 就労選択支援事業について
【資料第2号】

3 閉会

<配布資料>

- ・第20回共生のための文京地域支援フォーラムスケジュール……………【資料第1-1号】
- ・スライドショー 当事者の声……………【資料第1-2号】
- ・区内企業パネル……………【資料第1-3号】
- ・就労選択支援事業について……………【資料第1-4号】

<参考資料>

- ・共生のための文京地域支援フォーラム チラシ
- ・『就労選択支援事業がやってくる』第17回 TALANT 連絡会議 チラシ
- ・就労選択支援事業に向けた勉強会+意見交換会 チラシ

【開会】

- ・事務局より、欠席者の報告及び、当日資料の確認。

【議事】

(1) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて

【資料第1-1号】

- ・資料及びチラシについて、事務局より説明。
- ・当日のお手伝いについて、実行委員の方も手伝えるので、誰もいない状態はないと思われる。
(各委員より)
- ・ご質問、ご意見は特になし。

【資料第1-3号】

- ・資料について、事務局より説明。
- ・当日の掲示までに、SPコードを付ける。
(各委員より)
- ・ご質問、ご意見は特になし。

【資料第1-2号】

- ・資料について、事務局より説明。
- ・実際のスライドショー映像を放映する。
- ・スライドショーの画像に、途中から見ても分かるように、事業所名を入れる。
(各委員より)
- ・当事者の声の画像について、写真にインサートで絵等が入るが、何か意味があるのか？
意味があれば良いが、意味がない場合は、声よりも絵が気になってしまうと思う。
- ・当事者の声は分かるが、各事業所のスライド写真については、写真のみではなく説明が入った方が良い。
- ・キャプションが入っている事業所と、入っていない事業所がある。
- ・ゴミ拾いなど作業の写真は分かるが、部屋のみであると分かりづらい。
- ・キャプションが入っても、文字を目立たせるか絵(写真)を目立たせるか。
- ▶インサートで入る絵はカットできる。キャプションについては、再度、各事業所に確認をし、期日を決めて画像の差し替えを行う。当日は、スライドショーの会場に「文京区版 障害者就労支援 ハンドブック」を配架する予定である。

(その他)

- ・講演会にできるだけ人を呼びたいと思っている。各事業所や関係機関に声を掛けて協力して欲しい。
- ・当日開催しているハートフル工房会場にも、チラシを配架する予定。
- ・HW飯田橋からは、障害者雇用を担当している職員に声を掛けて、10名程参加できればと考えている。

(2) 就労選択支援事業について

【資料第2号】

- ・資料について、事務局より説明。まずは、「1.就労選択支援事業の概要」、「2.文京区の現状」を説明する。
(各委員より)
- ・各自治体、各区の動向を調べている状況である。学校は現場実習がある。独自のアセスメントを行っているが、外部のアセスメントで内容が異なってしまうと、進路に影響してしまうと思われる。
- ・学校のやり方と良くすり合わせをしないと行かない。教育を変えていく必要があるか。
- ・西日本が進んでいるという印象。「株式会社」が入り込んできている。利用者が能力主義で分かれてしまうのではないかと、危惧している。企業の方、学校関係者、すり合わせが必要である。
- ・実施するかは未定である。仕組みが分かりづらい。1か月でアセスメントできるか？との疑問がある。就労移行支援事業所は遅めのスタートになっている。現在、大学4年生からの相談もあり、受け入れている。アセスメントのスケジュールについても、3 か月は必要。
- ・相談支援事業所との連携が必要である。B型利用者の平均年齢が 40 代後半から 50 代手前で就労を考えていくことになるか。アセスメントをしっかりと取り、評価に落とし込めるか、中年期、壮年期は心配である。20代はない。事業に手を出したいが、問題が山積している状況。
- ・知的障害の事業所としては、ピンとこないのが正直なところ。選択支援事業を利用して、利用者や保護者に現実を知らせるためには良いか。意思決定支援に特化した、机上の空論ではないか。
- ・アセスメントを受けた後の結果について、どう対応するか。事業所は「就労困難」と考えていても、アセスメントの結果、「就労OK」となった場合は、どのようにしていくか。
- ・事業を開始するにあたって、「今の現状が良くないから、こうなるんだよ!」という説明が必要である。以前、行われていた、「学校から福祉事業所利用について、1度、就労移行をかませてもらってから進める」ということがあったが、いつの間にかなくなってしまった。今回も同じではないか。
- ・モデルケースを地域で行っている。来年度に結果が出ると思われる。マニュアル作成もしているという情報もある。
- ・「就労移行をかませる」ということは、足立区のみ実施している。あとのせで行っている。
- ・中学から支援学級を選ばない生徒もいる。サポート校、通信校等もあるのか。手帳を取得していない生徒も多い。
- ・文京区はB型(行先)が少ないと思われる。
- ・支援学校から実習生は来る。定員20名のところ、24名でやっている現状。
- ・利用者は少なくなっている。精神で、会社を退職後に、生活を安定させる為に日中の居場所としていたが、現在は、拠点や地活など色々に対応ができるようになってきている。
- ・区立はいない。利用者が少ない。引きこもりの方の対応が多くなってきている。ふる里学舎としては、区外の方も対応している。B型より、就労者に向けている感じである。
- ・新規の利用者は0名である。サードは入ってこないが、ファースト、セカンドは入っている。利用者の平均年齢が上がってきている。
- ・区は、支給決定する立場になるが、就労選択支援事業を実施する意向がある事業所が現状では1件のみというところは、懸念材料であると思う。
- ・区の中で、「厚労省が考えていることを適切に行いたい」という人を、しっかりと合わせてやるには、体制を

整えていくことが必要になる。区内の各事業所が行えない現状であれば、就労支援センターが行うことも考えられるが、現場がないということもあり、区が補助金等を準備して、そのような場を整えていくことも必要ではないかと考える。

- ・医療の立場からは、薬が良くなってきたこともあり、症状にも効いている。対象者も良くなり、継続してB型に通っている方もある。就労移行を利用するか、悩んでいる方もいる。区外の事業所（web、デザイン等）について、本人の希望だけ先行して進めてしまうサービスを選ばれるのは、良くないため、しっかりと連携していく必要がある。
- ・DH の卒業生は、自立訓練に進むケースが多い。今は、スマホを使ってバイト応募をしている方もいる（タイミー）。デイケアからのステップアップとしては良いこと。
- ・今回の事業については、全く関わりはない状況。就労支援のためのアセスメントシートが機構から、令和 5 年 3 月に出ている。アセスメントシート活用について問合せは増えている。課題別セミナーも行っているが、「アセスメントシートも活用」についての問合せや参加も増えている。
- ・法定雇用率が、2.5 になり、次は 2.7 になる。採用活動を拡大している状況。従来との関係機関と、他の機関にも相談を広げている状況。知的障害の社員が多かったが、現在は、精神障害の方も採用している。
- ・就労選択支援事業の制度については、知ってはいるが、現場にはおりにきていない現状がある。HWの現状としては、6/1 報告について、飯田橋所管内で指導を受けている企業は 500 を超えている。うち文京区内の事業所については約 20 事業所が新規雇い入れ計画作成命令対象となっており、本年 12 月末まで当該命令回避に向けて弊所が引き続き支援を行っている。
- ・事務局より「3. どこに、誰に相談しても質の高いアセスメントが受けられる地域を目指して」の説明及び、就労選択支援事業のチラシ 2 部を紹介する。

【閉会】

- ・次回（第 3 回）の就労支援専門部会については、1 月下旬～2 月上旬に頃開催予定。